

まえがき

飯舘村は20の「行政区」と呼ばれるまとまりで構成されています。1956年の合併で飯舘村ができる前から、それぞれの行政区が一つの共同体として農作業や祭りといった行事を行ってきました。そして各行政区にはそれぞれ特徴的な文化が形成されてきました。原発事故を機にどの行政区も変化を強いられましたが、それでもなお今でも各行政区はそれぞれ個性的な文化や風土を持っています。

東京大学の学生サークル東大むら塾飯舘部は、2020年、2022年と村の方方を紹介する「いいたてむらびとずかん」計2巻を上梓してきました。これらの取材のなかで、地域、行政区のコミュニティがいかに村の文化に重要な役割を果たしてきたかを強く感じてきました。すでに各種村史や「福島アトラス」といった資料がありますが、平成に入ってから、特に2017年の避難指示解除後の新たな地域の様子をまとめた資料に乏しいことに着眼し、この「いいたて行政区ずかん」を作成することとしました。ただ、20もの行政区を一度に扱うことは私たちの今の力では難しく、今回は目次にあります10行政区に限ってご紹介させていただくこととしました。ご紹介できなかった行政区には、伊丹沢、関沢、八木沢・芦原、大倉、佐須、宮内、長泥、蕨平、前田、二枚橋・須萱があります。第2編でご紹介すべく努力してまいります。

編集にあたり次のような方針を取りました。内容は、戦後、比較的最近の情報に焦点を当てています。ごく最近の様子をできるかぎり記載するようにしました。行政区がどう運営されているかという点にも注意を払っているのも特徴的です。本書が焦点を当てていない時期の歴史については、各種村史などをご参照くださればと思います。本文は、行政区長のお話を基調としつつ、既に挙げたような既存の資料も調査し、内容に反映させています。写真は、一部助言をいただきながらも私たちに特に印象に残った場所を中心に掲載しています。

行政区長の方々は本誌作成のために複数回にわたる取材にご協力してくださいました。とりわけ、10区（飯樋町）の渡辺富士男行政区長は、各行政区長へ取り次ぎや様々な助言をしてくださいました。このほかにもお話をくださった村の方もいらっしゃいます。飯舘村役場も、画像の提供などをしてくださいました。この行政区ずかんは、村の皆様が日頃より温かく私たちを迎えてくださったからこそ完成に漕ぎつけることができました。ご協力してくださった皆様に深く御礼申し上げます。

※本事業は、大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業の「飯舘村における将来世代への復興知継承に向けた教育研究プログラム」(代表：溝口勝)の支援を受けています。ここに記して謝意を表します。